

イーコトブックス

生物多様性の大研究

さまざまな環境における生物多様性の実態、それらがわたしたちにもたらしてくれるめぐみ、そして人間が招いた危機の現状とそれを回避するための取り組みについて、多くの写真とイラストを使って解説されています。これからの地球でさまざまな生物とともに暮らすための知恵を探せる一冊です。



お知らせ
臨海3Rステーションでは、環境に関する書籍の貸し出しを行っています。詳しくは、事務局スタッフまでお尋ねください。

【監修】小泉武栄 【出版社】PHP研究所 【発行年】2011年5月
【ISBN】4569781462 【定価】2,490円(税込) 【ページ数】64

映画上映会のお知らせ

【プラスチックの海】【もったいないキッチン】

3月19日(土)に開催される「イーコトフェスタ」で、環境に関する映画『プラスチックの海』、『もったいないキッチン』を上映します。『プラスチックの海』は、海洋プラスチック問題に焦点を当てたドキュメンタリー。『もったいないキッチン』は、食のもったいないを美味しく楽しく解決する映画です。映画を見て、暮らしに身近な環境問題への意識を高めませんか？



『プラスチックの海』 ①10:30～、②13:00～
『もったいないキッチン』 ①11:30～、②14:30～

リンクイプラス

臨海ビオトープ自然観察会

クリーンパーク・臨海の緑地には、メダカなどの水生生物が棲む臨海ビオトープや、コナラやクヌギなどの昔から九州にある木が植えられており、野鳥や昆虫などが集います。市民にとって自然環境と触れ合える貴重な空間です。ここでは6種のドングリの木の葉と実の違いなどの観察や、網を使ったメダカやヤゴなどの水生生物の観察など、命の尊さや自然の循環、自然の生きものの成り立ち(生態系)について、大人から子どもまで楽しく学ぶことができます。



▲ビオトープ



▲水生生物の観察



▲ドングリの葉と実の形の違いの観察

臨海3Rステーションの講座・イベント情報はここから

臨海3Rステーションでは、身近なエコに関する講座やイベントを紹介する「RINKAI NEWS」を毎月発行しています。プリントでの配布の他、公式WEBサイトでも紹介しています。ぜひチェックしてみてください！

RINKAI NEWS

最新号はこちらから！



福岡市 Fukuoka City Seaside 3R Station 臨海3Rステーション

〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭4丁目13番42号

《WEB》 <https://rinkai3r-station.com/>

《TEL》 092-642-4641 《FAX》 092-642-4598

《休館日》 月曜日(祝日の場合は次の平日)、年末年始

《開館時間》 10:00～17:00

《アクセス》 ●地下鉄「貝塚」より徒歩約20分

●西鉄バス「リサイクルプラザ前」より徒歩約1分

●西鉄バス「高須磨町」より徒歩約10分



身近な暮らしから「環境」について考える

ECOT

イーコト

これからの地球ってどうなるの？

03

2022. 冬号
winter

私たちの消費活動が生きものの暮らしを奪う!?

生物多様性って

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3,000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つひとつに個性があり、全て直接的、間接的に支えあって生きています。今、人の活動の影響でこれまでにないスピードで生きものの絶滅が起きているといわれています。生物多様性を守るために私たちにどんなことができるのでしょうか。

人間の関与で生物の絶滅スピードが1,000倍に!?

生物多様性の豊かさを測る指標「生きている地球指数(LPI)」によると、2016年までの約50年間に地球全体で脊椎動物の個体群は平均68%減少したといわれています。また人間活動によって絶滅は桁違いの速さで進み、1年間のうちに絶滅する種は100万種あたり100~1,000種と、20万年前に比べ約1,000倍です。今号では「生物多様性」をテーマに、引き起こされる問題とはどのようなものか、福岡での動きやその課題解消に向けた取り組み(イーコト)と合わせて、その現状に迫ります。資源を大切にす3Rは、生物多様性の保全にもつながります。生きものたちを思い浮かべながら3Rに取り組んでみると、新しい発見があるかもしれません。



TOPICS 消費者が支える生物多様性

私たちの身の回りの商品は、その多くが自然資源を原材料にしています。これからの地球環境を考えると、購入や利用の際は、生物多様性に配慮したものを意識的に選択することが消費者に求められています。見つけて選んで、地球環境を守る活動に参加してみましょう。

GOTS認証とは、テキスタイル(繊維製品)を加工するためのオーガニック基準です。ウールやコットン、絹などの原料繊維がオーガニックであることだけでなく、収穫から流通までの全ての過程で環境的・社会的に配慮した方法が実行されていることを示しています。



海のエコラベルは、水産資源や環境に配慮し適切に管理された持続可能な漁業によって獲られた水産物に付けられる認証ラベルです。世界の海洋保全を応援しましょう!

レインフォレスト・アライアンス認証は、農園の環境、土壌・水を含めた天然資源、生態系や生物多様性を守り、労働者の労働条件やその家族・地域社会を含めた教育・福祉などの厳しい基準を満たした農園に与えられます。この緑のカエルマークは、コーヒー、紅茶、チョコレート、バナナなどについています。



福岡市の取り組み
福岡市では、自然を体験し理解を深める自然観察会やエコツアーの開催、環境活動を行う団体相互の連携などを支援する市民団体の紹介、「3R」「温室効果ガスの削減」「自然環境の保護」などの環境保全活動を行う市民や市民団体への支援により、生物多様性の保全に取り組んでいます。

●森林の減少

世界では、1年間で平均592万haの森が失われ、過去30年間で熱帯地域の9割の森が失われました。森がなくなる原因は、砂漠化や酸性雨などの気候変動、森の生態系を無視した無計画な森林伐採、人口増による都市化などにあります。もし森や生物が地球から消えると、私たち人間だけでは生きていくことができません。生きていくのに必要な酸素は森から生まれますし、生活に欠かせない多くのエネルギーも、生物多様性による恩恵であり、私たちの食にもつながっています。いつまでも豊かな自然と暮らしていくためには、森を守り、再生していく行動が必要です。



●資源の大量消費

地球環境の豊かさが失われ続ける大きな要因は、人類がさまざまな自然資源の「消費」を増大させていることにあります。過去50年間で、電気やガスなどのエネルギーの需要も急激に増加。排出されるCO2(二酸化炭素)が、地球温暖化をさらに増進させる大きな要因となっています。こうした人類による消費は、地球の自然が再生する速度よりも速く拡大し、地球が吸収できる量よりも多くの廃棄物の排出につながっています。なんと、全人類が日本と同じライフスタイルで生活すると、1年間でその資源消費は地球2.8個分に相当し、資源の供給が追いつかない状況となってしまいます。



●日本における生物多様性の4つの危機

1 開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少

鑑賞や商業利用のための乱獲・過剰な採取や埋め立てなどの開発によって生息環境を悪化・破壊するなど、人間活動が自然に与える影響は多大です。

3 外来種などの持ち込みによる生態系のかく乱

外来種が在来種を捕食したり、生息場所を奪ったり、交雑して遺伝的になく乱をもたらしたりしています。また、化学物質の中には動植物への毒性をもつものがあり、それらが生態系に影響を与えています。



2 里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下

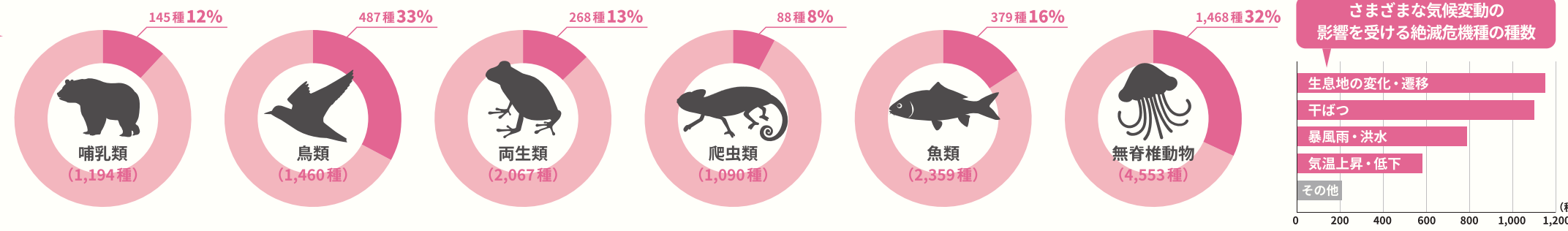
二次林や採草場が利用されなくなったことで生態系のバランスが崩れ、里地里山の動植物が絶滅の危機にさらされています。また、シカやイノシシなどの個体数増加も地域の生態系に大きな影響を与えています。

4 地球環境の変化による危機

気候変動は国境を越えた大きな課題です。平均気温が1.5~2.5度上がると、氷が溶け出す時期が早まったり、高山帯が縮小されたり、海面温度が上昇したりすることによって、動植物の20~30%は絶滅のリスクが高まるといわれています。

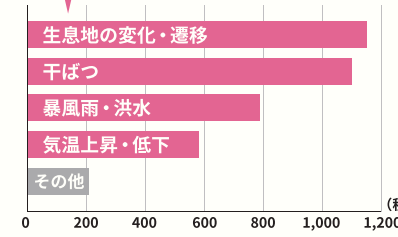
各分類群の絶滅危機種(総数)のうち気候変動の影響を受けている種類の割合

現在、気候変動の影響を受けていると考えられる野生生物の数は、4,000種を超えました。この数字は、今後さらに増加していくとみられています。



【出典】WWFジャパン

さまざまな気候変動の影響を受ける絶滅危機種の種数



身の周りで感じる「生物多様性」

「生物多様性」というと豊かな自然のことを言っているように聞こえますが、実は身近な自然環境が切り口になることもあります。たとえば「ミノムシ」。私が小学生だった1990年頃は、ミノムシを捕まえてきて服を脱がせ、幼虫に色紙や毛糸をまといせ、という授業がありました。そのくらいどこにでも、ミノムシがいたんです。でも、当時スタンダードだったミノムシの一種「オオミノガ」は、今や福岡県の絶滅危惧II類に指定されています。今初めて「そういえば」と思った方も多しはず。身近だからこそ変化に気づきにくいのかもかもしれません。街中でも、ちょっとした地面と日当たりがあれば必ず何かしらの生きもの(動植物)がやってきます。数年後、「いなくなってる!」なんてことがないよう、まずは花だんなどの身近な自然を見つけて、しゃがんだりのぞき込んだり触れたりしてみませんか?小さな出会いが生物の多様性を実感するきっかけになるかもしれません。



解決するために、こんなイーコトが!

01 イーコト 自然環境の復元・維持作業 油山自然観察の森 森を育てる会

福岡県ではいま、400種を超える昆虫類が絶滅危惧種としてレッドデータブックに挙げられています。油山自然観察の森 森を育てる会では、油山市民の森をメインフィールドに、甲虫が好んで集まるクヌギやコナラを中心とした明るい森づくりを通して、幼虫が育つ床をつくったり、放置すれば常緑樹林になっていくアカマツの林を維持する活動を行っています。多くのボランティアの手により、たくさんの生きものが棲む豊かな森が守り育てられています。



02 イーコト “ひろい”海の活動 一般社団法人ふくおかFUN

“ひろい”とは「海の広さ」と「ごみ拾い」をかけた造語で、スノーケル体験を通して福岡・博多湾の水中生物を観察した後に、ビーチクリーンアップ活動を行う新しい形の環境啓発活動です。それを手掛けるのが、ダイバーだからこそできる海の魅力発信、そして社会課題の解決に取り組む一般社団法人ふくおかFUN。未来を担う子どもたちに水中世界の魅力や不思議、海洋ごみなど海が抱える課題を伝えることで、自発的にごみ拾いをしたり、環境問題を考えたりする機会をつくっています。



03 イーコト 買って応援! 食べて応援! ふくおか地産地消応援の店

食の多くを海外に頼っている日本。生産地から食卓までの“旅した”距離(フード・マイル)が短い食べ物の方が、輸送する時に出る二酸化炭素(CO2)などの量を少なくすることができます。また、一般的に旬の食材は、おいしく、安価で手に入り、生産方法は省エネ・省資源型と言われています。旬の食材は、自然本来の季節の移り変わりの中で、その季節にだけ味わえる恵みです。ふくおか地産地消の店で、買って、食べて、生物多様性を守るための身近なアクションを起こしましょう。

